



### 有意義な夏休みを!

7月の夏課外を終えると18日間という長い休みに突入する。部活動では、合宿や遠征など、日頃とは違う活動も多いだろう。久しぶりの友人と久闊を叙する者、旅行に出かけ、非日常を楽しむ者もいるだろう。

ただ、もちろん忘れてはならないのは学習である。夏休みの重要性を強く意識してほしい。この18日間は、ある意味「何もない」18日間である。起きる時間も寝る時間も遊ぶ時間も、通常より制約がなくなる。だからこそ、君たちの意識が試される。この「何もない」18日間でどれだけのことのできるのか、「何ができる」18日間であるのかを十分に考えてほしい。

1、2年生は、部活動や各自の習い事など、多忙な日々を過ごす者も多いが、それだけに効率のよい学習を心がけてほしい。できるだけ通常と同じ生活リズムで過ごし、コンスタントに学習に取り組んでほしい。自分の「苦手」がはっきりしてきた者もいるだろう。苦手克服のために、各教科の課題をうまく活用しよう。ただ終わらせるだけでなく、解き直したり、教え合ったりして苦手を克服していこう。

3年生は、言うまでもなく勝負の夏である。志望校合格には、「何」が「どれだけ足りないのか」を把握できているだろうか。あるいは自分の「強み」を「どれだけ生かせるか」が分かっているだろうか。受験科目や配点を確認しよう。これまで受けてきた模試の結果などから自分の得手不得手を再確認して「この夏の重点項目」を自覚しよう。ありきたりだが、「**夏を制するものは受験を制する**」のである。ただ量をこなすのではなく、確かな戦略をもって学習に取り組み、志望校合格に近づくための18日間にしよう。

また、3年生は1日10時間以上の学習時間を確保しよう。コツは、まず朝は普段通りに起きて、午前中に3～4時間取り組むことだ。昼間に2～4時間勉強し、夜は「いつも通りに」3～4時間学習しよう。そうすると確実に10時間以上を達成することができる。この夏にしっかり学習に取り組んだ生徒は、秋以降、驚くほど学力を伸ばす。私たち教員は、そういう高校3年生をたくさん見てきた。自分を信じて、気持ちを奮い立たせて、夢に向かおう。この夏、ひとまわり大きくなってくれることを期待している。

### 前期進路検討会

7月2日(火)、9日(火)の2日間、午後から3年生の進路検討会が行われた。進路検討会では、6月進研マーク模試や実力考査の結果等を参考にして、「生徒が進路志望を達成させるためにどのような対策をとればいいのか」「個々の適性にあった進路は何か」ということについて、3年生全員について議論した。

また、今回の進路検討会は、生徒の志望大学の学部学科の個別学力試験(2次試験)までの長い期間、どう勉強するか作戦を立てる会議でもあった。学部学科によっては個別学力試験の試験科目や配点異なるため、志望者個々の学力の到達度も考慮して、対策を考えていく必要がある。

3年生の三者面談では、進路検討会で話し合った内容をもとに、具体的にどの科目をどのくらい、どの教材を使って学習していけばいいのかを担任と確認していくことになるだろう。改めて学習計画を立て直し、進路実現に向けて動きだそう。

### 自分の進路を見つめ直そう

夏休み期間は、自分の進路を見つめ直す機会がたくさんある。各大学のオープンキャンパスに参加する予定を立てている人も多いだろう。帰省した先輩たちや、久しぶりに会う親戚など、日頃話をする機会の少ない人とゆっくり語り合える時間もとれるだろう。何が自分の将来を決めるか分からない。様々な行動や会話を通して、自分の幅を広げよう。

2年生は、7月25日(木)に「かごしま“職”の魅力発見プロジェクト」が実施される。大学等で学び、各分野のスペシャリストになった人たちが、どのような社会貢献をしているのかを知るチャンスである。オープンキャンパスや三者面談を通して、受験という近い未来について考えるだけでなく、数年後、十数年後の自分の姿に思いを馳せるのもよいだろう。

1年生は、初めての三者面談が実施される。進路に関する「質問ができる」くらい、学部や学科、職業について親や友人と相談しておこう。何か手がかりがあれば、先生方もサポートしやすい。面談のための準備をしっかりしておこう。

## 夏休み中の学習室等の注意点

以下の期間は学習室が使用できません。

8/13~8/15 (学校閉庁のため)

以下の期間は図書室が使用できません。

8/13~8/15 (学校閉庁のため)

学習室の利用時間

8:30~16:30

自宅、学校、その他の場所で効果的な学習を!

## 受験は情報戦

受験対策は、ただ教科の勉強をするだけではない。例えば、この情報を知っているだろうか。

鹿児島大学では、2020年度入試(55期の受験)から「自己推薦型入試」が導入される。大学入試センター試験の成績、講義型試験、出願書類、面接等の結果を総合的に判断する入試である。ここでの「講義型試験」とは、講義を聴講した後、講義内容に関連した質問に答える形式である。

この受験に対応するためには、講義の要点を聞き逃さない力、その場で柔軟に講義内容を説明し直す力が求められる。かなりの練習が必要になるのは明らかである。また、次の情報を知っているだろうか。

鹿児島大学では、2020年度から、理学部が改組される。これまでは「数理情報科学科」「生命化学科」など4学科に分けて募集していたが、5プログラムへ変更される。

各プログラムの定員が「目安定員(約●人)」となり、正確な倍率等の把握が難しくなる。なお、工学部も7学科から2学科7プログラムへ改組され、「先進工学科」では「括り枠」での募集が始まる。合格ラインの見極めが難しくなる。

鹿児島大学では、2020年度から、教育学部も改組される。これまでは「学校教育教員養成課程(3コース)」「特別支援教育教員養成課程」に分かれていたが、1つにまとめられる。定員も、現行の215人から190人へと減少する。加えて、これまでは一般試験になかった「面接」が導入される。

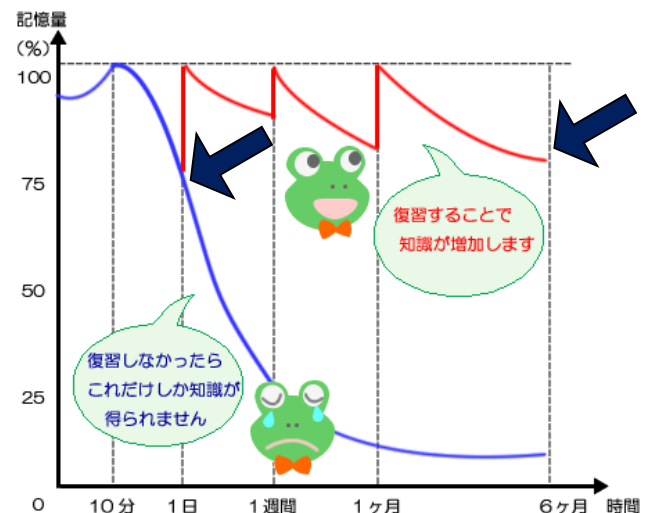
教員を目指す明確な理由や確かな知識、臨機応変な対応力や会話力が試されることになるだろう。学力を高める時間の一部を、面接に充てる必要が生じるのである。正確な情報をより早くより多く集めた者が有利である。不利益や危険を回避するためにも、情報をたくさん集めよう。

## レミニセンス効果

『進路の手引き』27頁に紹介されている「エビングハウスの忘却曲線」によると、人は何かを学んだとき、1時間後には56%忘れ、6日後には75%忘れ、31日後には79%忘れる。ただし、復習を繰り返すことで定着を図ることができ、復習を繰り返す中で、復習に必要な時間も短縮されていく。

効果的な復習には、「レミニセンス効果」が欠かせない。レミニセンス効果とは、情報を記憶した直後よりも、一定時間経ってからのほうがよく思い出せるというものだ。詳しくは各自で検索してもらいたい。特に効果的に記憶されるのは寝る前に学習した内容であることが説明されている。「疲れたから」「終わったから」ではなく、「適度に記憶を定着させるために寝る」というスタンスもあるということだ。【※1】ただし、レミニセンス効果を得るためには、寝る前に余計な情報は頭に入れない方がよい。スマホの使用、特にSNSや通信アプリの使用が、学習内容を忘れさせるという科学的なデータがあることも付け加えておく。

また、「分散学習」についても意識してほしい。間隔を空けて復習を繰り返す学習法だ。下の図【※2】の、翌日に復習する時のグラフの下がり幅を見てほしい。1週間後、1ヶ月後、6ヶ月後の復習開始時の方が失われている記憶が少ないのである。効果的な学習で、知識を確かなものにしよう。



【参考】※1 <https://studyhacker.net/columns/reminisensu-kouka>

【参考】※2 <http://zeirishi-community.com/anki4.htm>

センター試験まであと183日。頑張り3年生!